







病害虫発生予察情報予報第 8 号（12 月の予報）

佐賀県農業技術防除センター

I. 予報の概要および各作物の特記事項

作物名	病害虫名 ^{注1)}	12月の予想発生量 ^{注2)} (平年比)	予報対象の病害虫 (抜粋)
タマネギ	べと病	並	 タマネギ べと病 一次感染株
	ボトリチス葉枯症	並	
	1. べと病 本圃での感染を防ぎ、一次感染株（越年罹病株）の発生を抑えるために、本圃定植前（定植5日前～前日）にジャストフィットフロアブルを、定植14日後頃にオロンディスウルトラSCを散布する。		
	2. 乾腐病 発生時期は主に春期～貯蔵中であるが、発生を抑えるためには、定植前の防除対策が重要となる。地床育苗は、定植直前にベンレート水和剤またはトリフミン水和剤を根部浸漬し、セル育苗は、定植前日に同薬剤をトレイに灌注する。		
イチゴ (本圃)	うどんこ病	やや少	 ハダニ類
	灰色かび病	やや少	
	ハダニ類	やや多	
	アブラムシ類	やや少	
	1. ハダニ類 早期発見・早期防除に努め、薬剤防除の際は、下葉や葉裏まで薬液が付着するように十分量を丁寧に散布する。天敵カブリダニ剤を導入する場合は、天敵放飼前に天敵に影響の少ない薬剤を用いて、ハダニ類の寄生を0頭に抑える。		
キュウリ	1. 褐斑病 使用した資材等に胞子が付着して次作の伝染源となるため、前作で発生が多かった圃場では、植え替え前にハウス内と資材の消毒を行う。		
	2. ミナミキイロアザミウマ：黄化えそ病、タバココナジラミ：退緑黄化病 ウイルス病を保毒するアザミウマ類やコナジラミ類を次作に持ち越さないため、薬剤防除を栽培後期まで継続するとともに、植え替え時には、キルパーを用いるなどして株を完全に枯死させた後に株を抜き取り、施設密閉処理を十分な期間（地温 15℃の場合 18 日以上）確保して実施する。		
トマト	葉かび病	並	 黄化葉巻病
	灰色かび病	やや少	
	コナジラミ類	やや多	

作物名	病虫害名 ^{注1)}	12月の予想発生量 ^{注2)} (平年比)	予報対象の病虫害 (抜粋)
	1. コナジラミ類：黄化葉巻病、黄化病 多発すると防除が困難となるため、黄色粘着板を設置するなどして早期発見に努め、発生初期から防除を実施する。		
キャベツ	菌核病	やや少	 菌核病
	黒腐病	やや少	
	アブラムシ類	やや少	
	チョウ目害虫	並	
	1. 菌核病 発病してからでは防除が困難となるので、結球始めから予防的に薬剤防除を実施する。薬剤は株元に十分かかるように散布する。発病株は次作の伝染源となるので、菌核を作る前にほ場外へ持ち出し処分する。		
キク	白さび病	やや少	  クダハザミマ ナミハダニ
	アザミウマ類	やや多	
	アブラムシ類	やや少	
	ハダニ類	多	
	ハモグリバエ類	並	
	チョウ目害虫	やや少	
	1. アザミウマ類 多発してからでは防除が困難となるため、早期発見に努め、低密度時からの薬剤防除を徹底する。また、一部圃場ではアザミウマ類が媒介するウイルス病が認められている。発病株が認められた場合は、早急に抜き取り圃場外に持ち出し、適切に処分する。 2. ハダニ類 一部圃場で発生が多く認められている。多発してからでは防除が困難となるため、早期発見に努め、低密度時からの薬剤防除を徹底する。		

注1) 病虫害名に網掛けをしたものについては、予報の根拠とした内容を記載しています。

注2) 予想発生量については、平年との比較により記載しているため、実際の発生量とは相違を生じる場合があります。例えば、例年の発生量が少ない病虫害について「平年より多い」と予想した場合であっても、実際の発生量は多くない場合があります。

注3) 防除対策については「佐賀県病虫害総合防除計画」も参照してください。

病虫害総合防除計画掲載アドレス

https://www.pref.saga.lg.jp/ki_ji003101844/index.html

QRコード→



Ⅱ. 予報の内容・根拠等について

予報内容（来月の予想発生量）

- 平年（過去 10 年間）と比較し「少、やや少、並、やや多、多」の 5 段階で示しています。
なお、少発生が予想される病害虫等については、予報の概要のみの記載となる場合があります。

予報内容の根拠

- 農業技術防除センターが実施する県内各地での調査、防除員の調査、予察灯・トラップでの誘殺状況調査等に基づく発生現況、気象予報からみた病害虫の発生条件等を基に、関係者による発生予察会議で決定します。
○ 発生現況および気象条件が来月の病害虫の発生に及ぼす影響については、（－）：少発生、（－～±）：やや少発生、（±）：並発生、（±～＋）：やや多発生、（＋）：多発生として示しています。

防除上注意すべき事項

- 各病害虫を防除する上で特に注意すべき事項等を記載しています。なお、全般的な防除対策については「佐賀県病害虫総合防除計画」をご参照ください（2 ページの注釈にリンクが有ります）。

写真

- 1～2 ページ目：予報で対象とした病害虫を抜粋して掲載しています。

12 月の気象条件

- 病害虫の発生に関与する 12 月の気象条件については、福岡管区気象台発表の 1 ヶ月予報（令和 7 年 11 月 20 日）を基に、「気温：平年並」、「降水量：平年より少ない」と判断しています。

気象予報による要素別確率(%) 及び病害虫の発生に関与する気象条件

要素	1 ヶ月予報における 12 月の気象予報（確率予報%）			病害虫の発生に関与する気象条件（平年比）
	低い(少ない)	平年並 (佐賀市の平年値)	高い(多い)	
気温	30	40 (7.8℃)	30	並
降水量	60	30 (59.5 mm)	10	少ない

Ⅲ. 12月の予報

タマネギ

[【概要に戻る】](#)

定期調査 20 育苗圃場、防除員 4 育苗圃場

調査日：11月14日～19日

1. ベと病

1) 予報の内容

発生量：平年並

(12月に発病することはまれだが、苗床あるいは本圃で感染するリスクがある。)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況 (育苗圃)

発生株率：0% (平年0%、前年0%)

平年比：並 (±)

(2) 圃場の菌密度 (本圃)

平成25年以降、発生株率・発生圃場率はともに高い傾向が続いており、本圃の菌密度は高いと推察される。 (±～+) (図2参照)

(3) 12月の気象予報

降水量は少なく、少発生の条件 (一)

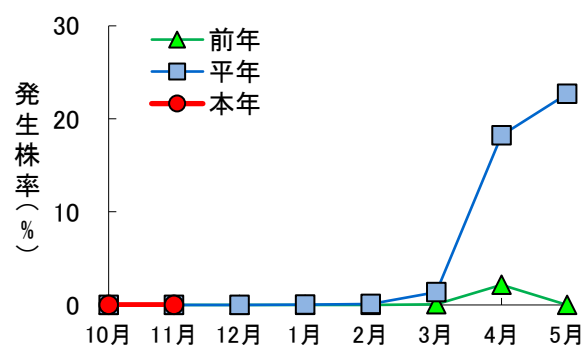


図1 タマネギでのべと病の発生推移

3) 防除上注意すべき事項

(1) 本圃での感染を防ぎ、一次感染株 (越年罹病株) の発生を抑えるために、本圃定植前 (定植5日前～前日) にジャストフィットフロアブルを、定植14日後頃にオロンディスウルトラSCを散布する。

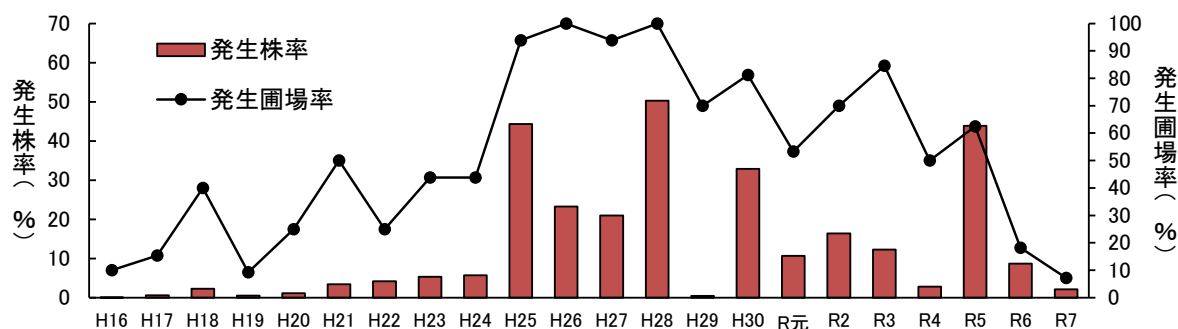


図2 タマネギ本圃でのべと病の発生圃場率と発生株率の年次推移 (4月下旬の定期調査結果)

イチゴ（本圃）

[【概要に戻る】](#)

定期調査 10 圃場、防除員 6 圃場

調査日：11 月 14～21 日

1. ハダニ類

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査（図 1 参照）

発生株率：24.0%（平年 13.7%、前年 10.9%）

平年比：やや多（±～＋）

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 早期発見・早期防除に努め、薬剤防除の際は、下葉や葉裏まで薬液が付着するように十分量を丁寧に散布する。
- (2) 薬剤の効果は圃場によって異なるため、薬剤散布した後は、必ず効果を確認する。また、薬剤抵抗性の発達を防ぐため、異なる系統の薬剤によるローテーション散布を行う。
- (3) 天敵カブリダニ剤を導入する場合は、天敵放飼前に天敵に影響の少ない薬剤を用いて、ハダニ類の寄生を 0 頭に抑える。

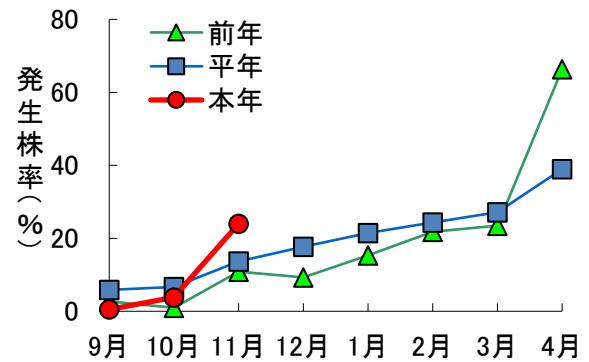


図1 ハダニ類のイチゴでの発生推移

トマト

[【概要に戻る】](#)

定期調査 6 圃場、防除員 4 圃場

調査日：11 月 14～17 日

1. コナジラミ類

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査（図 1 参照）

発生株率：15.5%（平年 8.0%、前年 21.0%）

平年比：やや多（±～＋）

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難となるため、黄色粘着板を設置するなどして早期発見に努め、発生初期から防除を実施する。

定期調査 8 圃場

調査日：11月14日～17日

1. 菌核病

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少ない

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査（図1参照）

発生株率：0%（平年0%、前年0%）

平年比：並（±）

(2) 12月の気象予報

降水量は少なく、少発生の条件（－）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 発病してからでは防除は困難となるので、結球始めから予防的に薬剤散布を実施する。薬剤は株元に十分かかるように散布する。

(2) 発病株は次作の伝染源となるので、菌核を作る前にほ場外へ持ち出し処分する。

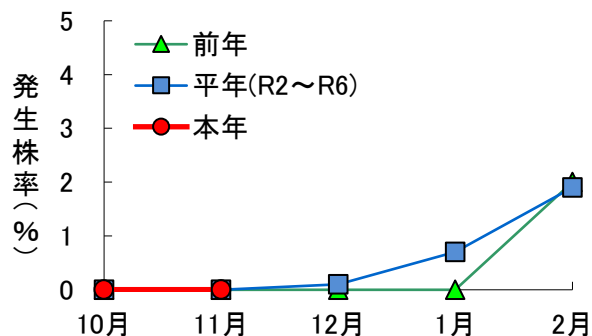


図1 キャベツ菌核病の発生推移

2. チョウ目害虫

1) 予報の内容

発生量：平年並

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査（図1参照）

発生株率：1.3%（平年2.9%、前年3.1%）

平年比：少（－）

②フェロモントラップによる誘殺数

ハスモンヨトウ 平年比：並（±）（図2参照）

オオタバコガ 平年比：やや多（±～＋）（図3参照）

シロイチモジヨトウ 平年比：並（±）（図4参照）

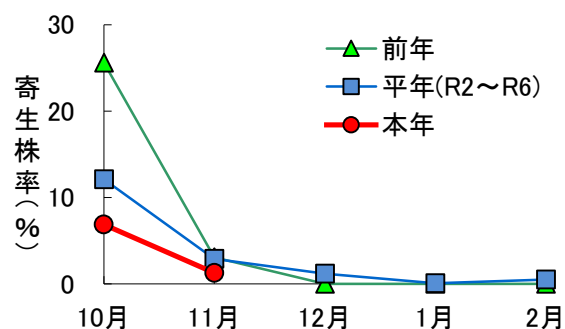


図1 キャベツでのチョウ目害虫の発生推移

3) 防除上注意すべき事項

(1) 結球部に食入した幼虫や、齢が進んだ幼虫に対しては薬剤の効果が著しく低くなるため、若齢幼虫のうちに薬剤防除を徹底する。卵塊や分散する前の若齢幼虫は見つけ次第、捕殺する。

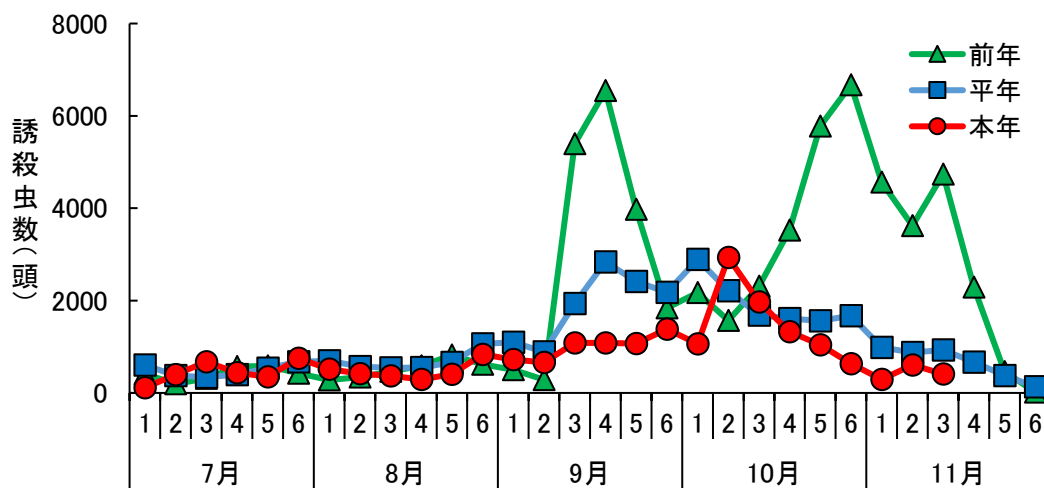


図2 フェロモントラップによるハスモンヨトウ雄成虫の半旬別誘殺数（川副町・農業試験研究センター調査）

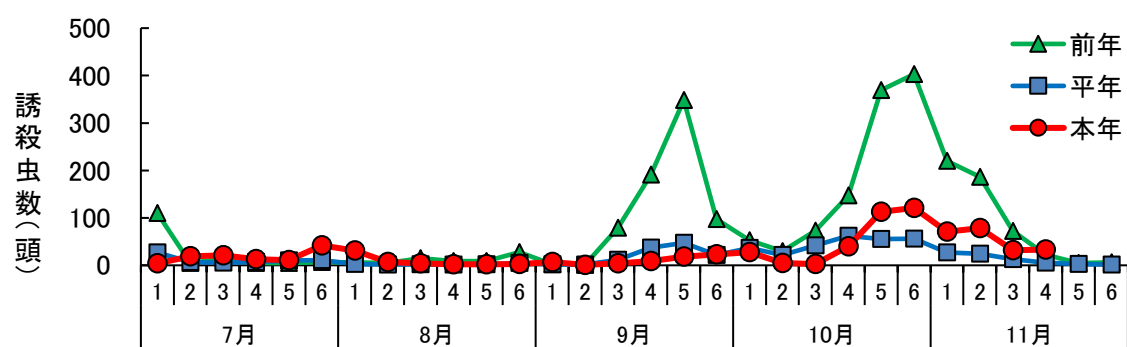


図3 フェロモントラップによるオオタバコガ雄成虫の半旬別誘殺数（川副町・農業試験研究センター調査）

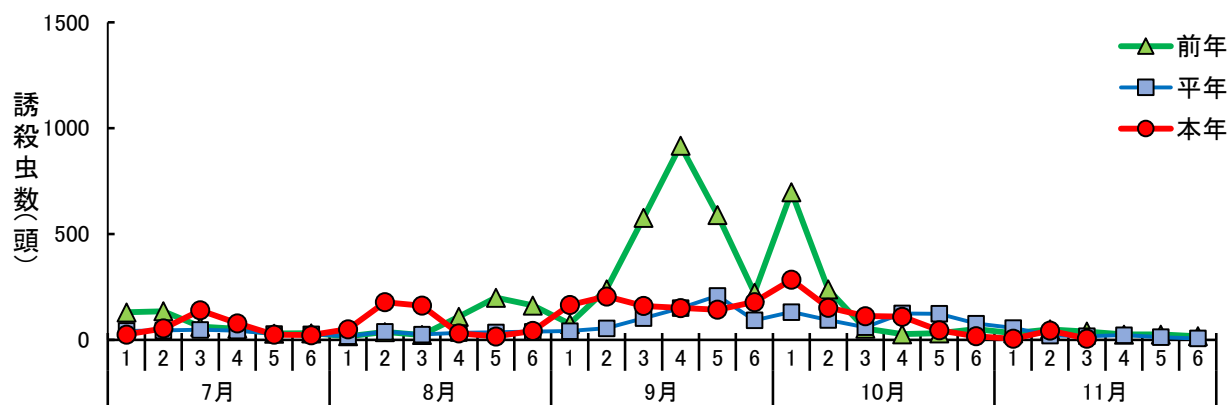


図4 フェロモントラップによるシロイチモジヨトウ雄成虫の半旬別誘殺数（川副町・農業試験研究センター調査）

定期調査 8 圃場

調査日：11 月 14～17 日

1. 白さび病

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少ない

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査（図 1 参照）

発生株率：0%（平年 0.4%、前年 0%）

平年比：並（±）

(2) 12 月の気象予報

気温は並、降水量は少で、少発生の条件（－）

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 施設内が多湿にならないように適宜換気を図るとともに、発生前から薬剤を定期的に散布する
- (2) 散布する際は、葉裏や下位葉にも薬剤が十分かかるように散布する。

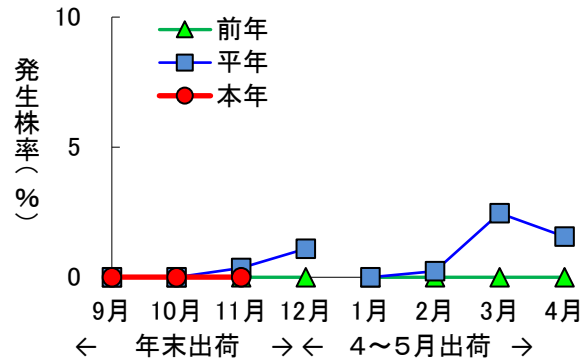


図1 キク白さび病の発生推移

2. アザミウマ類（クダハアザミウマ、ミカンキロアザミウマ、ミカンキロアザミウマ）

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査（図 1 参照）

発生株率：6.8%（平年 3.7%、前年 0.3%）

平年比：やや多（±～+）

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 圃場周辺の雑草は発生源となるため、除草を徹底する。
- (2) 施設内の侵入を防止するために、開口部に 0.4 mm 目以下の防虫ネットを被覆する。
- (3) 発生状況をよく確認し、低密度からの防除を徹底する。本虫は、薬剤のかかりにくい葉裏などに寄生しているため、散布むらがないよう、十分量を丁寧に散布する。
- (4) キクえそ病（TSWV）・茎えそ病（CSNV）は、主にミカンキロアザミウマにより媒介される。発病株を認めた場合は速やかに取り除き、媒介虫の防除を徹底する。

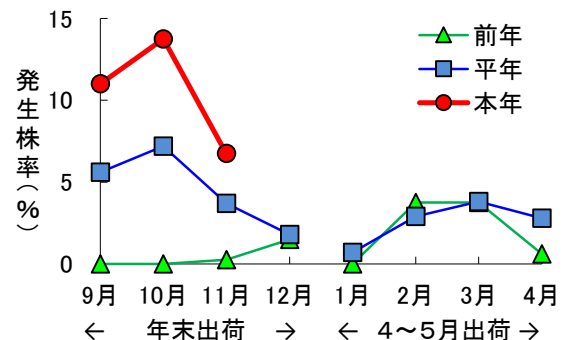


図1 アザミウマ類のキクでの発生推移

3. ハダニ類

1) 予報の内容

発生量：平年より多い

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査

発生株率：9.5%（平年 3.9%、前年 0.5%）

平年比：多（+）

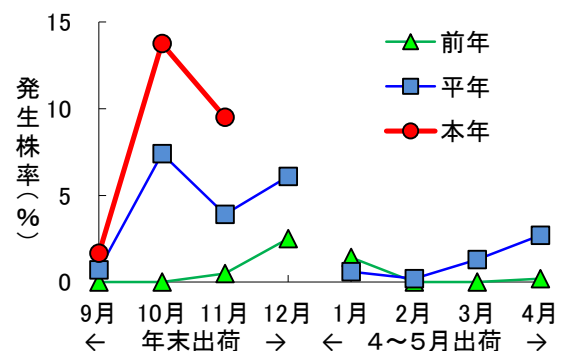


図1 ハダニ類のキクでの発生推移

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 圃場をよく観察し、早期発見、早期防除に努める。
- (2) 葉裏や下位葉にも薬剤が十分かかるよう散布する。
- (3) 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤を連用しない。

連絡先：佐賀県農業技術防除センター 病虫害防除部

〒840 - 2205 佐賀市川副町南里 1088

TEL (0952) 45 - 8153 FAX (0952) 45 - 5085

Mail nougyougi_jutsu@pref.saga.lg.jp

ホームページアドレス <https://www.pref.saga.lg.jp/kiji00321899/index.html>

病虫害総合防除計画掲載アドレス <https://www.pref.saga.lg.jp/kiji003101844/index.html>

防除セ QR コード



防除計画 QR コード

